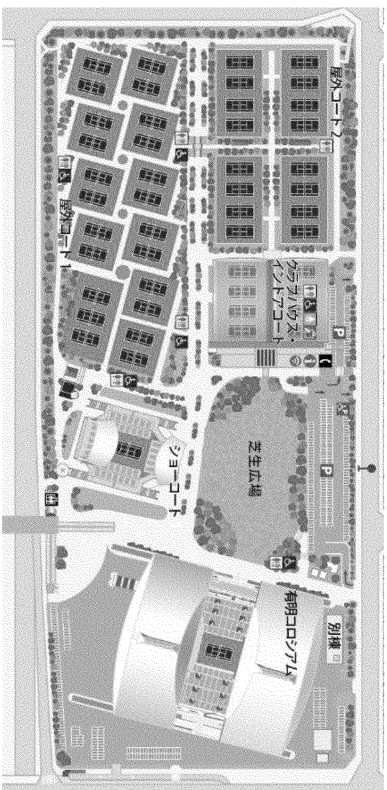


- (注) ・ 東京 2020 大会に向けた改修工事により、平成 29 年 1 月 1 日から屋外コート及びラフハウスを営業休止（一部のコートは平成 30 年 10 月下旬まで営業継続）し、令和元年 9 月上旬より順次供用開始
- ・ 東京 2020 大会に向けた改修工事のため、平成 29 年 1 月 5 日から令和元年 9 月 16 日まで有明コロシアム営業休止
 - ・ 東京 2020 大会に向けた準備工事のため、令和 2 年 1 月 2 日から全施設営業休止
 - ・ 東京 2020 大会の 1 年程度延期を受け、令和 2 年 10 月 25 日よりインドアコートを供用開始
 - ・ 東京 2020 大会後の撤去工事のため、令和 3 年 9 月 6 日から同年 1 月 30 日まで全施設営業休止
 - ・ 屋外コート他改修工事のため、令和 3 年 1 月 1 日から全施設営業休止
 - ・ 令和 4 年 3 月 22 日より有明コロシアムの営業再開、同年 4 月 1 日よりジョーコート、インドアコートの営業開始、令和 5 年 5 月 1 日より全面開業

(図 1) 施設概要図



*テニス施設ホームページ「公園マップ」より

(イ) 東京体育館

東京体育館（以下「体育館」という。）は、国際級のスポートイベント開催に対応した競技会場としてメインアリーナ・サブアリーナ等を備えており、また、個人での利用に供するための屋内ゴール・トレーニングルーム・陸上競技場等を併せ持つ都心のスポーツ拠点である。都民の体育・スポーツ及びレクリエーション活動の普及振興を図るとともに、都民の心身の健全な発達に寄与することを目的として、設置されている。

体育館の基本方針は、大規模な施設・設備を有し、かつ都心に位置することから観客収

容能力に優れているという施設特性を有効活用し、国際的又は全国・全般的な大会を積極的に誘致すること、また、レガシービジョンにおける戦略的活用の方え方を踏まえ、次のとおり運営を行うことである。

- 世界大会、全国大会、全都大会等の大規模な大会の場としての機能を重視し、優先して施設を提供する。
- 利用者の積極的な拡大及び施設稼働率の向上を図る。
- 体育・スポーツ及びレクリエーション利用を優先するが、施設を有効に活用するために、学術・文化活動等のための利用も認める。
- 戦略的活用の 18 施設のネットワークを活かした取組（発信力の強化、ニーズ対応力の強化、一体的取組によるスポーツ振興等）に協力する。

体育館の施設概要、指定管理者が行う主な業務及び利用人数の推移は、表 4 から表 6 まで及び図 2 のとおりである。

また、体育館の指定管理者については、原則、公募により選定されるが、平成 28 年度から令和 4 年度までの期間については、東京 2020 大会の開催に伴い、これまでの管理運営実績と蓄積されたノウハウを持つ現指定管理者が引き続き運営に当たることが適当であるなどとして、公益財団法人東京都スポーツ文化事業団グループ（以下「事業団グループ」という。）が特命により選定されている。

体育館は、テニス施設と同様、東京 2020 大会の会場（卓球）及び公式練習会場（水球）となっており、設計段階からワークショップにより障害のある方や学識経験者等から意見を聴取した上、ガイドラインに基づき大規模改修を行い、東京 2020 大会のレガシーとして引き継がれている。

また、指定管理者は、車椅子ラグビー国際大会、視覚障害者国際柔道大会、パラ卓球国際大会などの大規模なパラスポーツ大会等も主催者との相談を経て、誘致・調整を行っているほか、パラスポーツ指導員の資格を持つスタッフを配置し、トレーニングルーム利用時やゴール利用時等に障害者からのニーズに応じた相談等に応じる体制を整えている。

さらに、ホームページ、施設内の券売機における多言語対応や、受付への音声文字化・多言語翻訳アプリケーションソフトウェアの導入、補助犬待機スペースの設置や、障害者用トイレまでの動線に視覚障害者誘導用ブロック（以下「点字ブロック」という。）を敷設する等、アクセシビリティの向上を図っている。

ところで、体育館の設置目的及び運営方針に基づき、現場確認を含めた利用者の視点での検証を行ったところ、別項指摘事項及び意見・要望事項のとおり、利用者の視点に立ったサービスの提供及びハード・ソフト両面からのバリアフリー対応に改善が必要な点や検討が望まれる点が認められた。